

# 104校で学校施設被害

## 会見小 再開、めど立たず

地震の被害は学校施設にも広がっている。県教委の八日までの調査では、幼稚園三園、小学校十校、中学校二校、高校十校、専修学校三校の計四校で、何らかの被害があった。被害が深刻な状態になったり、児童や生徒の避難の難化に心配があるとする学校は、連休明けの十日を休校とすべき動きも広がっている。

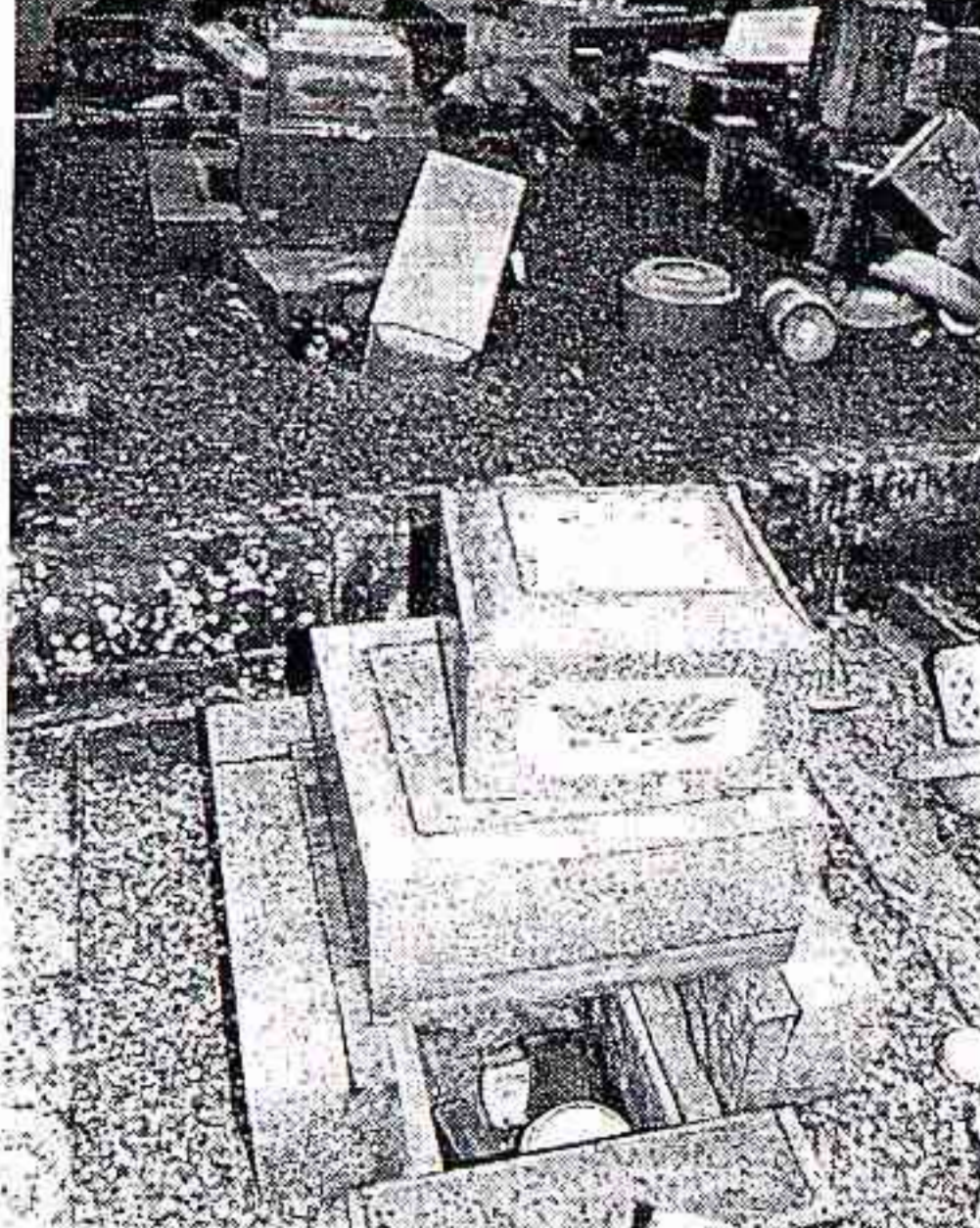
## あす休校拡大も

公立立寄小学校は一日は休校して授業再開を二日ある程度は様子を見たいという意向で、一階から断りまで壊れていると見られる。立寄市の外江小学校では、時教委が調査した結果、鉄筋コンクリート製、立ち入り禁止とされる。建ての北校舎二階の五、六(廊下)と閉ざされ、同校が使用している三教室で、十を休校する。このコンクリートのほりにけい法も、被害の少ない。たしか、中

鳥取県西部地震  
鳥取県西部地震から三日の八日、被害が大さかた西部地域では、被災住民の不自力な生活が断絶している。県警によると、午後七時現在では、鳥取県は重傷二十人をあて九十五人、建物被害は重傷千八百二十に増えた。この日朝から雨が降り、かわり安を招いて被害を拡大している。

## 屋根、シートで覆う住民

地震の被害が大きい、災 降るとの予報が出ている。被災者の避難を促すこと、住民は野山に逃げ、八日、九日、被害にあつた屋根を青いビニールシートで覆う作業に、日、九日を迎える町内外



災害救助法適用 日野町を歩く

追われ、親類や友人が手助けを求めた。約四千六百人の町の人口がこの日、九日を迎える町内外



家族、親類が総出で屋根のビニールシート掛けや土のう作りなどに追われた日野町下校で

被災106億円超す  
鳥取県西部地震の被災106億円超す。鳥取県西部地震の被災106億円超す。鳥取県西部地震の被災106億円超す。

飯設住宅など 支援策急ぐ  
被災者支援策急ぐ。被災者支援策急ぐ。被災者支援策急ぐ。

郵便物など 非常取り扱い  
郵便物など非常取り扱い。郵便物など非常取り扱い。郵便物など非常取り扱い。

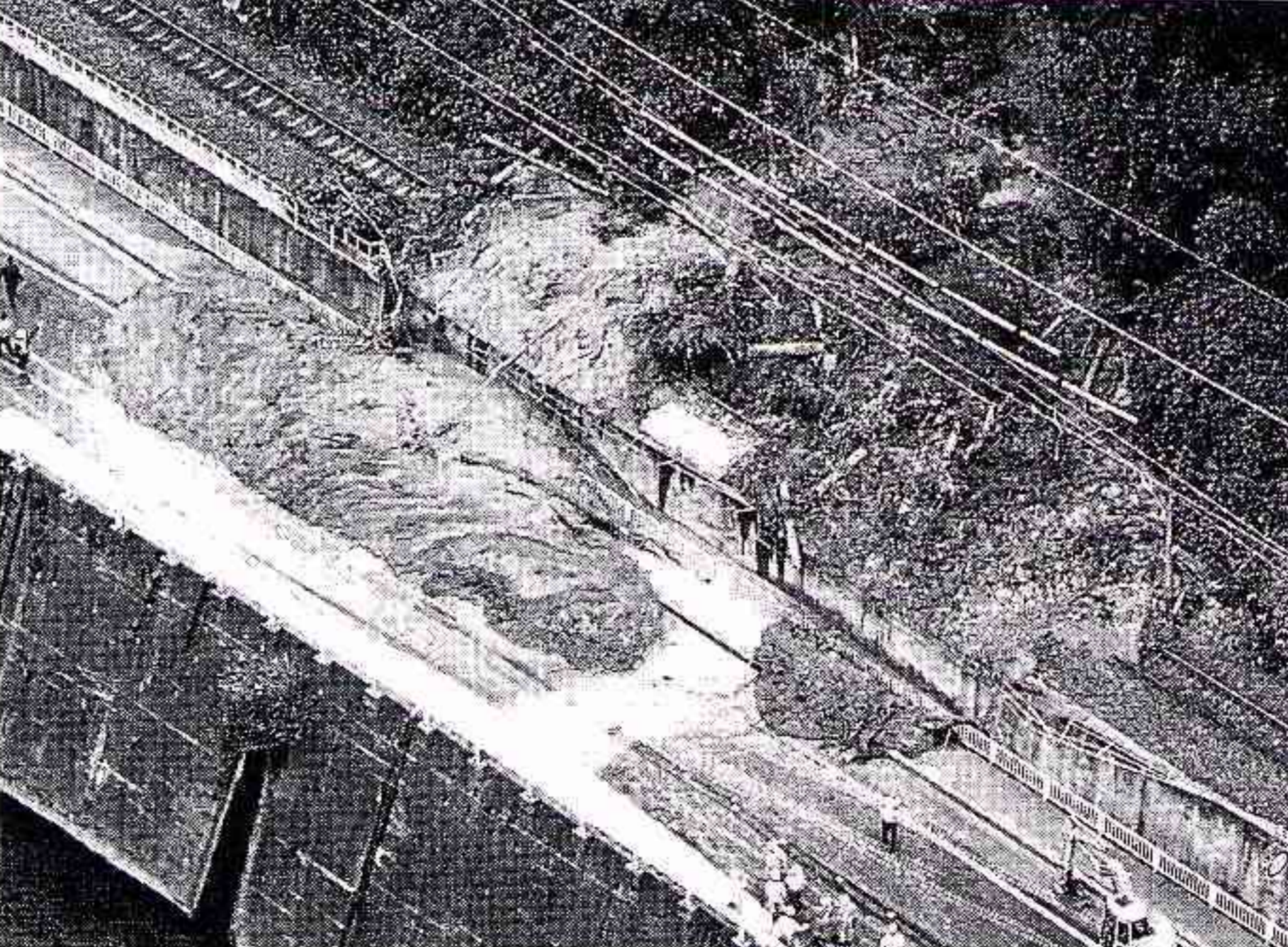
# 秋雨、住民に追い打ち

## 鳥取県西部地震

## 作業現場に土砂崩れ／避難所生活に不安

## 余震で遅れる復旧作業

鳥取県西部地震で大きな被害を受けた地域では、復旧作業が遅れている。八日午後二時、鳥取県西部地震で大きな被害を受けた地域では、復旧作業が遅れている。八日午後二時、鳥取県西部地震で大きな被害を受けた地域では、復旧作業が遅れている。



新たな土砂崩れがJR伯備線の線路や並行する国道181号をふさいだ。8日午後2時40分、鳥取県日野町日野町で、本社へりから

被災現場 鳥取県西部地震の被災現場。被災現場。被災現場。

通行止め 鳥取県西部地震で大きな被害を受けた地域では、通行が止められている。通行止め。通行止め。

(10月9日 朝日新聞抜粋)

# 鳥取県西部地震

## 初の降雨土砂崩れ警戒

### 県発表 公共土木被害106億円

鳥取県西部地震から三日目の八日、被害が大きかった同県米子市や日野町など被災地に地震後初めて雨が降った。余震は回数が減ったものの、同日夜には鳥取県西部で一日ぶりに震度5弱を観測するなど依然として続いている。被災地では雨を含んで地盤が緩み、土砂崩れなどの二次災害が発生する恐れがあるとして、警戒を強めている。

鳥取県西部で震度5弱の余震があったのは八日午後八時五十分ごろ。同県米子市、境港市、鳥取県安来市などでも震度4を観測。同日八時四十分と同一時十七分ごろにも鳥取県東部、鳥取県西部の一部で震度4を観測する地震があった。震度5弱の余震は六日

鳥取県西部は八日朝から厚い雨雲に覆われ、昼前から時折雨が降った。県は土砂災害の危険がある日野町下菅の国道180号わきの

がけに防護をめぐり仮設、各町も住民に警戒を呼び掛けた。JR境線全線と山陰線の一部区間が運転を見合わせた。

鳥取県西部は八日朝から厚い雨雲に覆われ、昼前から時折雨が降った。県は土砂災害の危険がある日野町下菅の国道180号わきの

は四百二十六カ所で約百六億五千九百三十万円。さらに農林水産関係では、施設分が総額約十二億五千二百万円。農作物被害

も白ネギ八千万円、ニンジの適用を決定。これで同法の適用は六市町となった。被災地の復旧の動きも徐々に本格化している。閉鎖中の米子空港は十一日再開の見込み。また断水は溝口町が八日中、日野町は十一日に復旧の運びで、住宅の断水は解消される。

秋の観光シーズンの三連休を控え、どの旅館も地震前は予約がいっぱいだったが、現在は日が暮れても半分近くの部屋の明かりが消えたままだ。

皆生温泉の土産物店の店主(65)は「余震に備えて棚に陳列していた壊れやすい品物を下ろした以外、いつもと同じなのに例年のにぎやかさがなく」と語った。

米子でも、その強さは阪神大震災の半分以下だったという。また、気象庁はマグニチュードを周期約六秒の波を基準に算出しており、入倉教授は「今回の地震波に同期六秒前後の波が多かったのでは」と、実際の大きめの数値が出た可能性も指摘した。

KINETは強震計データを自動収集し、インターネットで公表するシステムで、阪神大震災後に開発された。



余震による土砂崩れで寸断された国道181号。左上は不通になっているJR伯備線(8日午後、鳥取県日野町)

鳥取県西部地震から三日目の八日、被害が大きかった同県米子市や日野町など被災地に地震後初めて雨が降った。余震は回数が減ったものの、同日夜には鳥取県西部で一日ぶりに震度5弱を観測するなど依然として続いている。被災地では雨を含んで地盤が緩み、土砂崩れなどの二次災害が発生する恐れがあるとして、警戒を強めている。

鳥取県西部は八日朝から厚い雨雲に覆われ、昼前から時折雨が降った。県は土砂災害の危険がある日野町下菅の国道180号わきの

は四百二十六カ所で約百六億五千九百三十万円。さらに農林水産関係では、施設分が総額約十二億五千二百万円。農作物被害

も白ネギ八千万円、ニンジの適用を決定。これで同法の適用は六市町となった。被災地の復旧の動きも徐々に本格化している。閉鎖中の米子空港は十一日再開の見込み。また断水は溝口町が八日中、日野町は十一日に復旧の運びで、住宅の断水は解消される。

秋の観光シーズンの三連休を控え、どの旅館も地震前は予約がいっぱいだったが、現在は日が暮れても半分近くの部屋の明かりが消えたままだ。

皆生温泉の土産物店の店主(65)は「余震に備えて棚に陳列していた壊れやすい品物を下ろした以外、いつもと同じなのに例年のにぎやかさがなく」と語った。

米子でも、その強さは阪神大震災の半分以下だったという。また、気象庁はマグニチュードを周期約六秒の波を基準に算出しており、入倉教授は「今回の地震波に同期六秒前後の波が多かったのでは」と、実際の大きめの数値が出た可能性も指摘した。

KINETは強震計データを自動収集し、インターネットで公表するシステムで、阪神大震災後に開発された。

調査は同会がボランティアで、米子市や境港市、日野町など同県西部の十四市町村の約八百棟を調査。柱などの破損で、倒壊の恐れがある建物を「危険」とし、入り口などに赤い紙を張り立ち入り禁止とした。ほかに危険判定は米子市五棟、溝口、淀江各四棟など。パトロールは九日も行われる予定。

調査は同会がボランティアで、米子市や境港市、日野町など同県西部の十四市町村の約八百棟を調査。柱などの破損で、倒壊の恐れがある建物を「危険」とし、入り口などに赤い紙を張り立ち入り禁止とした。ほかに危険判定は米子市五棟、溝口、淀江各四棟など。パトロールは九日も行われる予定。

## 建物の破壊力小さかった

鳥取県西部地震の地震波は、一九九五年の阪神大震災に比べ、家屋倒壊などをもたらす建物への破壊力が小さかったことが、京都大防災研究所の入倉孝次郎教授(地震災害)らの解析で分かった。

入倉教授らは、自治体や企業などの協力で全国約一十カ所に設置された科学技術庁の強震観測網(KINET)のデータ、同県米子市

鳥取県西部地震で鳥取県米子市とみられる。皆生温泉は京阪神の客が多く、阪神大震災後は常連客が減り低迷傾向。皆生グランドホテル天水の江口洋二支配人(56)は「阪神大震災と今回と、地震の被害を一度受けた」という。

東光園の高島裕営業企画室長(53)は地震が発生した時は大阪にいたが、皆生に戻り被害の少なさに驚き「品物を下ろした以外、いつもと同じなのに例年のにぎやかさがなく」と語った。

米子でも、その強さは阪神大震災の半分以下だったという。また、気象庁はマグニチュードを周期約六秒の波を基準に算出しており、入倉教授は「今回の地震波に同期六秒前後の波が多かったのでは」と、実際の大きめの数値が出た可能性も指摘した。

KINETは強震計データを自動収集し、インターネットで公表するシステムで、阪神大震災後に開発された。

調査は同会がボランティアで、米子市や境港市、日野町など同県西部の十四市町村の約八百棟を調査。柱などの破損で、倒壊の恐れがある建物を「危険」とし、入り口などに赤い紙を張り立ち入り禁止とした。ほかに危険判定は米子市五棟、溝口、淀江各四棟など。パトロールは九日も行われる予定。

調査は同会がボランティアで、米子市や境港市、日野町など同県西部の十四市町村の約八百棟を調査。柱などの破損で、倒壊の恐れがある建物を「危険」とし、入り口などに赤い紙を張り立ち入り禁止とした。ほかに危険判定は米子市五棟、溝口、淀江各四棟など。パトロールは九日も行われる予定。

調査は同会がボランティアで、米子市や境港市、日野町など同県西部の十四市町村の約八百棟を調査。柱などの破損で、倒壊の恐れがある建物を「危険」とし、入り口などに赤い紙を張り立ち入り禁止とした。ほかに危険判定は米子市五棟、溝口、淀江各四棟など。パトロールは九日も行われる予定。

## 京大・防災研教授ら解析

鳥取県西部地震の地震波は、一九九五年の阪神大震災に比べ、家屋倒壊などをもたらす建物への破壊力が小さかったことが、京都大防災研究所の入倉孝次郎教授(地震災害)らの解析で分かった。

入倉教授らは、自治体や企業などの協力で全国約一十カ所に設置された科学技術庁の強震観測網(KINET)のデータ、同県米子市

鳥取県西部地震で鳥取県米子市とみられる。皆生温泉は京阪神の客が多く、阪神大震災後は常連客が減り低迷傾向。皆生グランドホテル天水の江口洋二支配人(56)は「阪神大震災と今回と、地震の被害を一度受けた」という。

東光園の高島裕営業企画室長(53)は地震が発生した時は大阪にいたが、皆生に戻り被害の少なさに驚き「品物を下ろした以外、いつもと同じなのに例年のにぎやかさがなく」と語った。

米子でも、その強さは阪神大震災の半分以下だったという。また、気象庁はマグニチュードを周期約六秒の波を基準に算出しており、入倉教授は「今回の地震波に同期六秒前後の波が多かったのでは」と、実際の大きめの数値が出た可能性も指摘した。

KINETは強震計データを自動収集し、インターネットで公表するシステムで、阪神大震災後に開発された。

調査は同会がボランティアで、米子市や境港市、日野町など同県西部の十四市町村の約八百棟を調査。柱などの破損で、倒壊の恐れがある建物を「危険」とし、入り口などに赤い紙を張り立ち入り禁止とした。ほかに危険判定は米子市五棟、溝口、淀江各四棟など。パトロールは九日も行われる予定。

## 住宅危険度 立ち入り禁止109棟

鳥取県西部地震で鳥取県米子市とみられる。皆生温泉は京阪神の客が多く、阪神大震災後は常連客が減り低迷傾向。皆生グランドホテル天水の江口洋二支配人(56)は「阪神大震災と今回と、地震の被害を一度受けた」という。

東光園の高島裕営業企画室長(53)は地震が発生した時は大阪にいたが、皆生に戻り被害の少なさに驚き「品物を下ろした以外、いつもと同じなのに例年のにぎやかさがなく」と語った。

米子でも、その強さは阪神大震災の半分以下だったという。また、気象庁はマグニチュードを周期約六秒の波を基準に算出しており、入倉教授は「今回の地震波に同期六秒前後の波が多かったのでは」と、実際の大きめの数値が出た可能性も指摘した。

KINETは強震計データを自動収集し、インターネットで公表するシステムで、阪神大震災後に開発された。

調査は同会がボランティアで、米子市や境港市、日野町など同県西部の十四市町村の約八百棟を調査。柱などの破損で、倒壊の恐れがある建物を「危険」とし、入り口などに赤い紙を張り立ち入り禁止とした。ほかに危険判定は米子市五棟、溝口、淀江各四棟など。パトロールは九日も行われる予定。

調査は同会がボランティアで、米子市や境港市、日野町など同県西部の十四市町村の約八百棟を調査。柱などの破損で、倒壊の恐れがある建物を「危険」とし、入り口などに赤い紙を張り立ち入り禁止とした。ほかに危険判定は米子市五棟、溝口、淀江各四棟など。パトロールは九日も行われる予定。

調査は同会がボランティアで、米子市や境港市、日野町など同県西部の十四市町村の約八百棟を調査。柱などの破損で、倒壊の恐れがある建物を「危険」とし、入り口などに赤い紙を張り立ち入り禁止とした。ほかに危険判定は米子市五棟、溝口、淀江各四棟など。パトロールは九日も行われる予定。

調査は同会がボランティアで、米子市や境港市、日野町など同県西部の十四市町村の約八百棟を調査。柱などの破損で、倒壊の恐れがある建物を「危険」とし、入り口などに赤い紙を張り立ち入り禁止とした。ほかに危険判定は米子市五棟、溝口、淀江各四棟など。パトロールは九日も行われる予定。

調査は同会がボランティアで、米子市や境港市、日野町など同県西部の十四市町村の約八百棟を調査。柱などの破損で、倒壊の恐れがある建物を「危険」とし、入り口などに赤い紙を張り立ち入り禁止とした。ほかに危険判定は米子市五棟、溝口、淀江各四棟など。パトロールは九日も行われる予定。

調査は同会がボランティアで、米子市や境港市、日野町など同県西部の十四市町村の約八百棟を調査。柱などの破損で、倒壊の恐れがある建物を「危険」とし、入り口などに赤い紙を張り立ち入り禁止とした。ほかに危険判定は米子市五棟、溝口、淀江各四棟など。パトロールは九日も行われる予定。

調査は同会がボランティアで、米子市や境港市、日野町など同県西部の十四市町村の約八百棟を調査。柱などの破損で、倒壊の恐れがある建物を「危険」とし、入り口などに赤い紙を張り立ち入り禁止とした。ほかに危険判定は米子市五棟、溝口、淀江各四棟など。パトロールは九日も行われる予定。

# 土木、農水産被害143億円

## 余震の中 復旧作業

### 被災地に雨、警戒強める

「鳥取県西部地震」から三日目を迎えた八日、被災地では余震が続く中、鳥取県内外からのボランティアも増え、急ピッチで復旧作業が続いた。しかしまだ千人余りが避難生活を強いられ、土木、農水産関係だけで被害額は百四十三億円を超えた。現地では同日朝から小雨が降り始め、鳥取県警や鳥取県災害対策本部、鳥取地方気象台は、余震で地盤が緩んでいることから土砂崩れや建物の新たな倒壊など二次災害への警戒を呼び掛けている。

### 鳥取県西部地震

の半分の雨量でも発令する方針を決定。鳥取地方気象台は雨に関する情報を出して警戒を呼び掛けている。

また県災害対策本部は、行政無線を通じて各市町村に情報を伝え、住民への注意喚起を進めるよう要請した。

被災地には県内をはじめ東京都、兵庫、広島、鳥根県などからボランティア約三百人が駆けつけ、住宅内の片付けや家屋の屋根に防水シートを張りつけたり、雨による土砂崩れに備えて土のう作りなどに取り組んだ。

水道は会見町を除いて九日にはほぼ復旧する見通しとなったが、道路は依然として十二カ所で通行止めになっており、復旧作業が続いている。米子空港は十一日から使用再開の予定。JR伯備線は八日午後九時現在、鳥取県内のけが人は九十五人、家屋は全半壊が百四十一棟、一部損壊を含めると千八百七棟。依然として二市五町で約千人以上が避難を続けている。

鳥取県西部地震による土木関連施設の被害は約百七億円に上り、収穫期を目前にしての二十世紀梨の落果や液化化現象による干拓地農地の塩害など、農林水産関係被害は三十六億円となった。

鳥取県は八日、境港市、会見町への災害救助法の適用を決めた。地震後の調査で家屋被害が増え、避難を続けている住民もあるため、適用を受けた自治体は米子市、西伯、日野、溝口町と合わせ二市四町となった。



地震で緩んだ線路の地盤を土のうで補強する作業員＝8日午前9時25分、鳥取県日野町のJR伯備線

## 西伯で震度5弱

### 最大規模の余震

八日午後八時五十一分ごろ、鳥取県東部を震源とする地震があり、鳥取県西伯町で震度5弱、鳥取県岸本町、日吉津村、淀江町、米子市、境港市、鳥根県安来市で震度4を観測した。震源の深さは約一〇キロ。マグニチュード

約五・二と推定される。鳥取西部地震の余震のうち最大規模。この地震で西伯町は町民に再度、自主避難を呼びかけた。日本道路公団米子管理事務所は、点検のため米子自動車道の米子―蒜山間を全線通行止

めとした。JR西日本米子支社は一時的に管内の列車の運行をストップした。境港、会見にも災害救助法適用。鳥取県は八日、境港市、会見町への災害救助法の適用を決めた。地震後の調査で家屋被害が増え、避難を続けている住民もあるため、適用を受けた自治体は米子市、西伯、日野、溝口町と合わせ二市四町となった。

(10月9日 日本海新聞抜粋)

# 被災地に雨 2次災害警戒



余震で新たに流出した土砂で覆われた国道181号。道路の上を走るJR伯備線の線路では、復旧作業中だったが、作業員らは間一髪難を逃れた＝8日午後2時15分、鳥取県日野町貝原

## 鳥取県西部地震

# 被害さらさらに拡大

## 鳥取、総額140億円に

鳥取県西部地震から三日目の八日、震度5弱の地震が発生したうえ、地震後初めての雨に見舞われ、鳥取、島根両県は土砂崩れなどの二次災害発生にも警戒を強めている。被害額は同日現在のまとめで、公共土木施設関係が鳥取県は約百六億六千万円、島根県は同三億九千万円と分かった。今後、集計が進むにつれ、さらに増えると思われる。

(2、24面鳥取、25、26、27面に関連記事)

鳥取県西部は昼前から折雨が降り、同県は土砂災害の危険がある日野町下野の国道180号わきのがけに防護柵を仮設、各町も住民らに警戒を呼び掛けた。

鳥取県災害対策本部のま

とめでは、被害額は、道路損壊、境港漁港の港湾施設破損など土木関係の約百六億六千万円のほか、農林関係は赤子、白ネギなど農産物が約二億円、林道など施設関係三十三億九千万円の計三十六億四千万円で、総額約百四十億円に上っている。

重軽傷者は境港市を中心に六人増えて九十五人。建物被害は全半壊など計約二千八百五十棟。西伯町、日野町、溝口町を中心に千八百人余りが避難生活をしている。

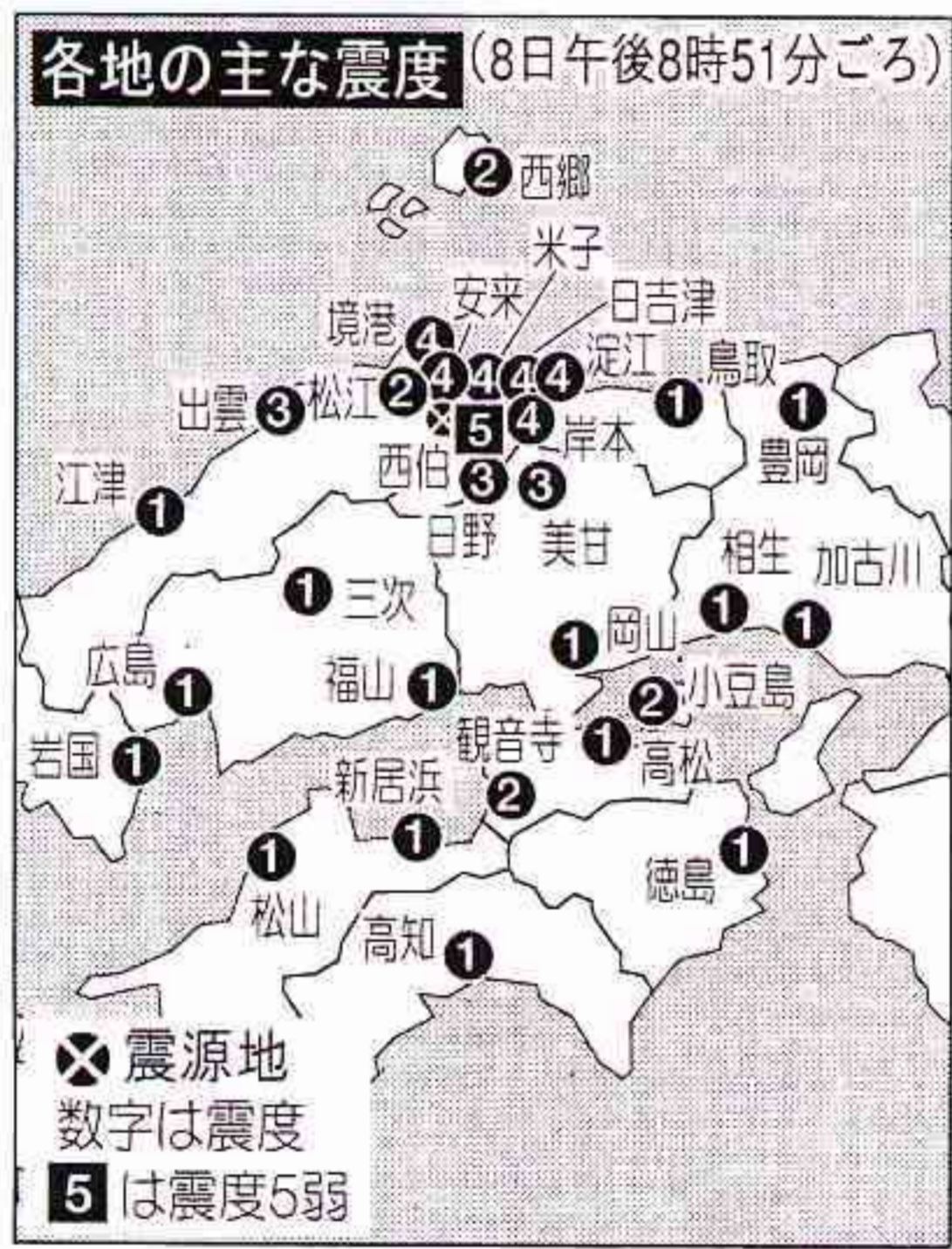
道路交通は、国道180号、181号が、ともに一部で一回となっている。JR伯備線は線路への落石、土砂崩壊などが五カ所あり、復旧の見込みはまだ立っていない。

医療関係では、被害の最も大きい日野病院は入院患者七十四人のうち二十六人は帰宅、残りは国立米子病院(二十人)博愛病院(十二人)などへ全員が転院。西伯病院、済生会病院も一部が鳥取大学付属病院、山陰労災病院など転院した。

学校関係では、小、中、高校などの計百四校で被害を確認。その他の社会教育施設など計六十一施設と文化財二十五件が一部損壊している。

鳥取県は新たに境港市と会見町に災害救助法を適用することを決めた。これと同法の適用は二市四町となった。

## 西伯で震度5弱



八日午後一時十七分ごろ、鳥取県東部を震源に、深さ一〇キロ、マグニチュード(M)5.5と推定される地震があった。

鳥取県西部地震との関連を照らし合わせたところ、震源の位置は同県横田町内と推定された。

この地震により同県大東町と斐川町で震度4、松江市、出雲市、仁多町、鹿島町などで震度3と推定された。

鳥取県は新たに境港市と会見町に災害救助法を適用することを決めた。これと同法の適用は二市四町となった。

鳥取県災害対策本部のまとめでは、被害額は、道路損壊、境港漁港の港湾施設破損など土木関係の約百六億六千万円のほか、農林関係は赤子、白ネギなど農産物が約二億円、林道など施設関係三十三億九千万円の計三十六億四千万円で、総額約百四十億円に上っている。

重軽傷者は境港市を中心に六人増えて九十五人。建物被害は全半壊など計約二千八百五十棟。西伯町、日野町、溝口町を中心に千八百人余りが避難生活をしている。

道路交通は、国道180号、181号が、ともに一部で一回となっている。JR伯備線は線路への落石、土砂崩壊などが五カ所あり、復旧の見込みはまだ立っていない。

医療関係では、被害の最も大きい日野病院は入院患者七十四人のうち二十六人は帰宅、残りは国立米子病院(二十人)博愛病院(十二人)などへ全員が転院。西伯病院、済生会病院も一部が鳥取大学付属病院、山陰労災病院など転院した。